

ねっとわ〜く



ぬいのいけ

佐賀県杵島郡白石町の縫ノ池

平成23年 2月

主な内容

- 巻頭言 北部九州土地改良調査管理事務所長 平岩 昌彦
- 事業概要 北部九州土地改良調査管理事務所の事業及び業務内容
- 組織紹介 組織における担当係の業務内容
- 改良区紹介 土地改良区の紹介 筑後川土地改良区（農林水産大臣賞受賞）
- 活動組織紹介 農地・水・環境保全向上対策活動 川津資源保全隊（農村振興局長賞受賞）
- 業務紹介 地区調査 筑後川下流右岸地区
- 業務紹介 地区調査 駅館川地区
- 業務紹介 地域整備方向検討調査 上場地区
- 業務紹介 国営造成水利施設保全対策指導事業 西国東地区
- 業務紹介 諫早湾干拓事業 環境モニタリング調査の取組み
- 業務紹介 水路補修試験工事の取組み 八代平野地区
- 業務紹介 新技術の紹介 新地下水位制御システムFOEAS(フォアス)システム
- 業務紹介 国営完了地区フォローアップに伴うホームドクター制

私たちは食料・農業について何をすべきか

北部九州土地改良調査管理事務所長 平岩 昌彦



21世紀に入り10年が経過し、世界の人口増加、地球環境問題の顕在化、水や農地などの資源制約により、食料・農業をめぐる状況はきびしさを増しつつあります。中国・インドなどの新興国での所得向上などにより食料価格が上昇しはじめ、農産物貿易をめぐる状況が不安定化しています。このような状況の下で、わが国の食料の安全保障を確かなものにするためには、一定量の食料を自国で生産できる体制を維持することが必要です。

その食料生産体制の基盤を支えている全国の農業水利システムは、ダムや頭首工等の基幹水利施設が7千箇所、農業用水路の延長は40万km、うち基幹的水路は4万9千kmあり、膨大な社会資本ストックを形成していますが、多くの施設で老朽化が進行しています。このため、これらの生産装置を長期にわたり最大限に機能を発揮させるためには、的確な機能診断に基づき必要な補修・補強等を行うことにより施設を長寿命化し、ライフサイクルコストの低減を図る「ストックマネジメント」の取組みが重要となっています。

また、農業水利システムのほとんどは土地改良区により維持管理されており、さらにシステムの末端にある農業用水路や農地周辺の環境は、水利組合や集落などの地域共同体の活動により保全されています。こうしたことから、今後の食料生産体制の基盤を維持するためには、基幹的水利施設の保全には施設を造成した国等が一定の責任を果たしつつ、農業水利システムの末端は地域共同体による維持管理を行っていくことが現実的な展開方向であると考えます。

そこで、農業水利システムを維持管理する土地改良区の方々に聞いてみると、農業水利システム全体の水管理・維持管理から末端圃場レベルでの農業者の水利用への対応まで様々な課題に直面しています。

例えば、ある土地改良区では、パイプラインの劣化・変状に対してどのように診断・評価して保全対策をしていいのか技術的な支援が必要です。また、施設園芸農家からは、かんがい用チューブの目詰りや水質の課題が上がっています。また、別の土地改良区では、稲の作付時期が多様化しており、これに対応した用水の確保が必要になっています。農業者からは、需要変化に対応したきめ細かい用水供給を求められています。さらに、水利システムの老朽化や構造上の問題のため、実際の用水供給は計画通りにはいかず、多大な労力を要しています。

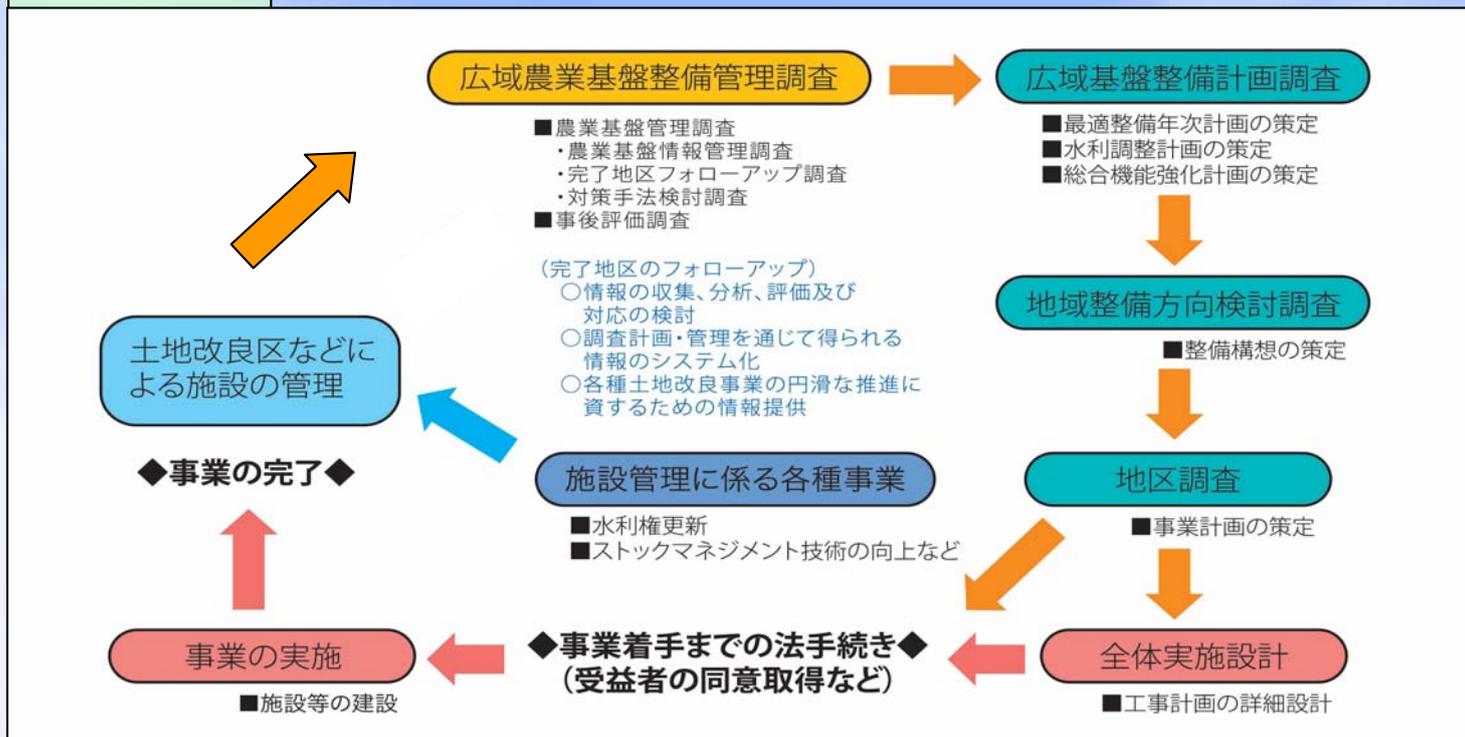
また、ある土地改良区では、高齢化に伴い耕作放棄地が増加する中で、水路や揚水ポンプ場の補修・補強コストが年々高まっており、これを解決するためには、農地再編と企業参入や新規就農などをセットで進める必要があります。さらに別の土地改良区では、排水水門や排水ポンプの操作をする熟練操作員さんが高齢化している上に、近年の局地的な集中豪雨の発生と洪水到達時間の変化などにより、湛水被害を防ぐために大変苦勞しています。

このため、食の安全・安心を図るには、農業水利システムにおいて土地改良区や農業者が直面している課題の解決を国・県・市等が支援して、農業が持続的に行えるようにすることが重要です。

こうしたことから、私たち土地改良調査管理事務所は、広域的な生産基盤の調査・計画技術に加え、ストックマネジメントにおける機能診断技術などを向上させて基幹的水利施設の長寿命化を図り、さらに、大規模な生産基盤をめぐる状況変化を的確に把握し、農業者のニーズに対して、きめ細かく、柔軟かつスピード感のある対応をしていく必要があると考えます。

事業概要

業務の概要



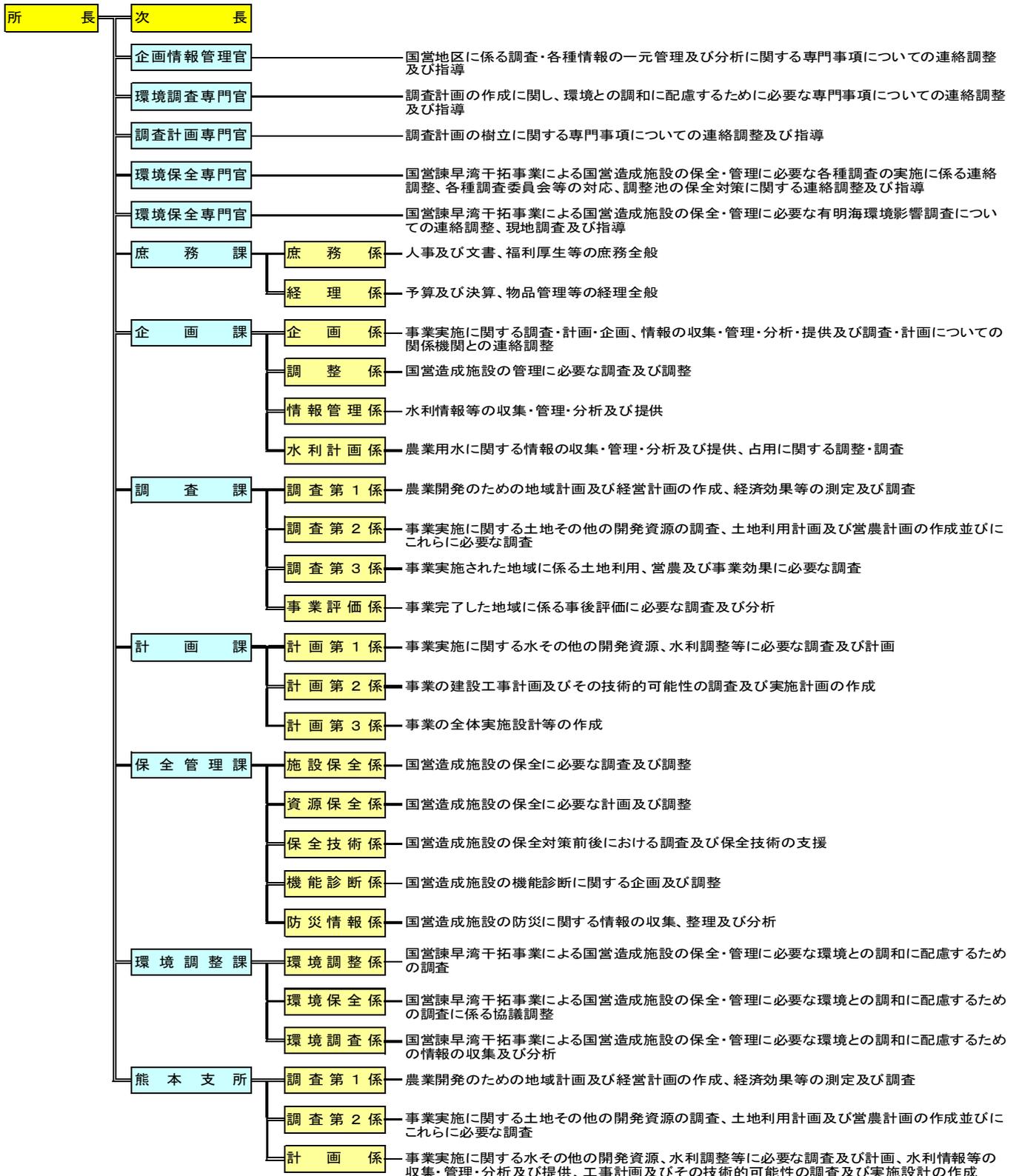
管内概要図



北部九州土地改良調査管理事務所では、北部九州地域(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分)における国営土地改良事業の実施に関する各種調査及び、国営土地改良事業で造成された施設の管理に関する業務を行っています。

組織紹介

組織と業務内容



北部九州土地改良調査管理事務所では、この4月から「企画課」と「保安全管理課」を設置し、また、「企画情報管理官」を新設し、上記体制で業務を行っています。

筑後川土地改良区

「第51回全国土地改良功労者表彰(平成21年度)」にて 農林水産大臣賞を受賞

管理施設の概要

筑後川土地改良区は、筑後川からの農業用水の安定的取水を目的として、国営筑後川下流農業水利事業により造成された制水工(取水口)1ヶ所、水門1ヶ所及び、パイプライン5.3kmと、耕地整理事業で造成した揚水機場16ヶ所や、88kmにおよぶ水路の施設の維持管理を行っています。

また、大正14年に自家用発電所を造成し、管理を行っています。



筑後川土地改良区 川島理事長

筑後川土地改良区の実績

筑後川土地改良区は、利水、治水ともに困難なクレーク地帯において、約100年の永きに亘り土地改良施設の良好な維持管理による極めてきめ細やかな配水調整を行っています。また、地域農業の変化に即応しながら土地改良施設が果たす多面的機能を有効に発揮するとともに、その重要性を十分に認識し、常に組合員や地域の要望に答えています。そのために、役員・総代・職員が一丸となって、国・県・市町・水資源機構・関係土地改良区・JA等と連携しながら農村地域の振興発展に取り組んでいます。

また、どこよりも安いかんがい経費で、米づくりに熱意と努力を傾注して、稲作振興に寄与してきたことを大きな喜びとし、誇りとしています。

施設の紹介

- ・国登録文化財
(平成20年7月8日指定)
- ・福岡県久留米市三潴町
- ・筑後川土地改良区所有
- ・赤レンガ造の建造物、
現在は、その役目を終え
筑後川土地改良区におい
て、農業歴史資料館とし
一般公開されています。



旧三井寺ポンプ場及び変電所



踏み車(足踏み水車)

土地改良区の概要

- 事務所所在地 福岡県久留米市三潴町
- 設立年月日 昭和52年2月1日
- 受益面積 3,387ha(平成21年度現在)
- 組合員数 4,692人(平成21年度現在)
- 土地改良区の受益地は、筑後平野の南西部、久留米市より大川市に至る筑後川左岸3市1町(久留米市、筑後市、大川市、三潴郡大木町)に位置する穀倉地帯にあります。

国営筑後川下流土地改良事業の実施に伴い、5耕地整理組合が合併し、筑後川土地改良区として発足したものです。



川津資源保全隊

農業・農村振興、地域づくりに向けた優れた取組みとして
「平成22年度田園自然再生活動コンクール」にて
農村振興局長賞を受賞

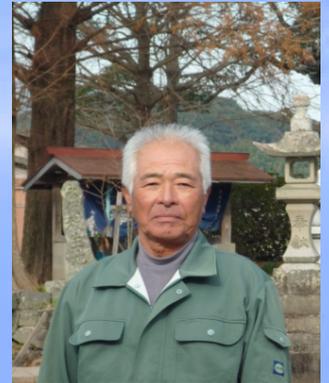
活動組織の概要

ぬいのいけ

白石平野の西端にある縫ノ池は、かつて天然の湧水を湛える美しい池でしたが、この地域は水源に乏しく、農業用水や飲料水を地下水に依存していたため、長い間枯渇していました。

しかし、地盤沈下対策として農業用水の地下水汲上げの抑制や飲料水の地表水への転換が図られ、約40年ぶりに湧水が復活しました。

これを契機に平成14年7月に縫ノ池湧水会が設立され、環境美化活動や近隣都市住民を含めた交流活動が開始され、その後、平成18年4月より活動範囲を集落全域に広げ、周辺水路の環境整備等を中心とした、農地・水・環境保全向上対策活動を行っています。



代表 栗山 和久さん

農業・農村振興、地域づくりに向けた取組み

- 地域の農業者が主体となって、縫ノ池の湧水保全や、周辺水路の浚渫などの環境整備等を行っています。また、湧水を用いたお茶会や、魚釣り大会等、地域住民と都市住民との交流を図るイベント活動等も行っており、現在、その活動範囲を集落全域へと展開しています。
- また、縫ノ池という地域の貴重な農業資源の保全・再生活動を通じて、地域コミュニティの再形成(伝統芸能の伝承)や、地域の活性化など、農村の振興に寄与しています。



浚渫中の用排水路

川津資源保全隊の今後の取組み

- 集落内における農業用排水路の浚渫や水路清掃作業等を、集落イベントとして位置づけ、生態系の観察機会を通じて、生息する淡水魚と営農活動の関わりについて理解を深めることで、次世代を担う子供たちへ農村環境・ふるさとの大切さを伝えていきたい。
- 縫ノ池では、湧水を求め多くの人が訪れており、水汲み場周辺等に草花の植栽等を行い親水池として活用し、四季を通じて近隣都市住民の方への安らぎと潤いの場を提供することで、地域農業への理解を高めていきたい。



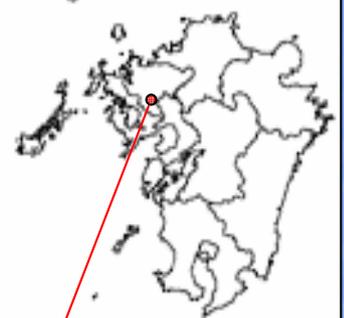
湧水を湛える縫ノ池



湧水を求め訪れた人々

活動地域

九州



佐賀県杵島郡白石町

国営土地改良事業地区調査 筑後川下流右岸地区

調査地区の概要

地区は、佐賀平野の筑後川下流右岸に広がり、米、麦及び大豆といった主要作物や野菜の生産により、耕地利用率が140%を超える大規模複合経営が展開され全国でも有数の食料供給地域です。地区内には、昭和44年から平成18年頃までに、ほ場整備等と一体となって築造されたクリーク(用排兼用水路)が網目状に広がっています。

本地区のクリークは、総延長が約1,300kmにおよぶ長大な土水路であり、地域の農業用水の安定供給を図るための用水貯留や通水をはじめ、豪雨時の洪水貯留機能や常時排水を行うために重要な役割を果たしています。

しかしながら、近年の水位変動の増加や集中豪雨の多発化などの自然的状況等の変化により、クリークでは、広範囲に渡る法面崩壊やそれに伴う泥土の堆積が進行し、機能低下が懸念されている状況です。

また、クリーク沿いの道路施設等への被害も発生しており、法面崩壊が今後さらに進行することにより、家屋や農地・農業用施設等への被害や、洪水貯留機能の低下・制水門の閉塞等による湛水被害が発生する恐れがあります。

クリークの整備状況

クリークは造成後20年以上が経過し、県営クリーク防災機能保全対策事業で、土水路のクリークをコンクリートライニング等により再整備されています。

この再整備の成果により総延長約1,300kmのうち整備済みの約510kmについては、当面の保全対策は必要はありませんが、未整備の約790kmについては、早急な対策が必要となっています。



未整備のクリーク



整備済みのクリーク

整備の実施



水田のクリーク法面崩壊状況



道路のクリーク法面崩壊状況



位置図

筑後川下流右岸地区

事業化に向けた取組み

本調査では、基幹的なクリーク約400kmの中でも、緊急性、重要性の高い路線を対象に法面保護を行うことにより、施設の機能回復を図り、併せて法面崩壊に起因した広域的な災害を未然に防止することで、農業生産・農業経営の安定を図り、周辺公共施設等の保全、国土の保全を確保する事業を計画するものです。

事業構想

- 事業目的 : 土水路法面整備
(平成22年度～平成23年度)
- 受益面積 : 約14,300 ha
- 事業工期 : 平成24年度～
- 改修施設 : クリーク法面整備
- 事業工期 : 平成24年度～ (予定)



利用や管理のしにくい未整備のクリーク群



高生産性のほ場と一体的に整備されたクリーク群

基盤整備の進展

国 営 土 地 改 良 事 業 地 区 調 査

駅 館 川 地 区

調 査 地 区 の 概 要

駅館川地区は、昭和40年度～55年度に国営総合農地開発事業により、山林の開墾、畑地かんがい施設の整備が行われた、大分県宇佐市(旧安心院町)を中心とする地域(以下安心院地域)を対象に、耕作放棄地のうち、再生可能な農地を含む既存農地の利用方向を中心とした土地利用の再編計画と、再編される土地利用を基にした効率的な用水計画及び、持続的な営農を支える生産基盤の整備計画について検討を行っています。

ぶどうの一大生産地

安心院地域では、大規模なぶどう園が造成され、その生産量は県内の半分以上を占めるまでになり、グリーンツーリズムと連携し、観光ぶどう園が盛んに展開されています。



ぶどう袋掛け作業



安心院ワイン



地 域 課 題 へ の 取 組 み

地域課題を解決するため、関係機関から構成される駅館川地区推進協議会及び幹事会を設置し、持続的な営農が可能な営農改善策とそれを支える基盤を確保する農地再編対策について、調査・検討を行っています。

また、地域の農業振興上の課題を明らかにするため、担い手農家の方との意見交換会や地域の現状及び課題を再確認し意見・要望等の把握のため、農家座談会を行っています。



担い手農家との意見交換会



集落別農家座談会

地 域 整 備 方 向 検 討 調 査 上 場 地 区 営 農 課 題 へ の 取 組 み

ワークショップ※の取組み

営農課題調査の中で、ワークショップ手法を取り入れ、国、地元関係機関(市町、土地改良区)、農家等の関係者ととも、地区営農の制約要因に把握と改善策の把握を行いました。

※ワークショップ手法とは、関係者が一同に会して、同一の目的の為に話し合い、意見を整理する手法



•参加者の方々が、専門家から、ワークショップの説明を受けながら話し合いをしているところ。



参加者の皆様が、各グループで話し合った内容を発表。

ワークショップの結果

今回取りまとめた営農課題の抽出と改善策は以下のとおりです。

①営農課題

- ・地域の過疎化・高齢化が進み、後継者が少なくなっている。
- ・耕作放棄地が増加し、病害虫の温床にもなっており、地域の営農意欲が下がっている。
- ・農産物価格が下がる中、ブランド化が難しく、農家の収入が減少している。

②改善策

- ・労働時間を短縮するため、農業の機械化、農業労働者への研修等を進め、効率的な農作業を実施する。
- ・農業法人化、土地の集約化生産規模を拡大する。
- ・耕畜連携を実施し、肥料等の農業生産費を安くする。
- ・農畜産物の品質向上を維持し、価格を安定させる。

※なお、今回の参加者は、限られた農家等の関係者であるため、今後、一層の話し合いが必要です。

トピックス

平成22年4月8日にJAからつ大型直売所「唐津 うまかもん市場」がオープンした。唐津市、玄海町の地元産の農産物が、販売されている。



唐津 うまかもん市場:唐津市久里

国 営 造 成 水 利 施 設 保 全 対 策 指 導 事 業 西 国 東 地 区 施 設 の 長 寿 命 化 の た め の 機 能 診 断 の 取 組 み

地 区 の 概 要

国営西国東干拓事業は、昭和20年度に実施された緊急開拓事業の一環として、呉崎新田及び真玉新田の全面に展開する広大な干潟地を延長14,078mの堤防で囲み、592haを干陸して427haの農地を造成し、入植及び増反により畑地利用の近代化を行い、新農村を建設するとともに、背後地の災害防止及び排水改良を行うことを目的とした事業であり、昭和44年に完了しています。

造成された干拓地は、大部分が砂質土壌の畑地で構成され、その特性を生かした塩害に強い白ネギ・葉たばこ等の畑作農業が盛んな地域となっています。



写真上:3工区の海岸堤防の状況(写真右側が干拓地)

写真左:全国的なねぎの一大産地であり、作付面積は全国3位、生産量は全国6位を誇る。

しかし、近年においては、海岸堤防の老朽化(堤防土台は砂質土であることから吸出しによる陥没・裏法の沈下等)が著しく、また、畑地の飛砂及び、砂の表面流出により排水路の堆砂が進行し、水理・水利用機能が低下しています。

また、その他の水利施設においても劣化・損傷、老朽化による機能低下がみられるため、地区全体における機能保全計画の立案が課題となっています。

本業務の目的は、国営西国東干拓事業で造成された施設の機能診断調査を行うとともに、施設の機能を保全するために必要な対策方法を定めた機能保全計画の作成を行うことにより、施設の長寿命化と維持管理の財政負担の平準化を図ることを目的として平成21年度に機能診断調査を実施しています。



海岸堤防背面の陥没



排水路ブロックの崩壊

機 能 診 断 と は

- ①事前調査(施設状況を把握するための資料収集や施設管理者からの聞き取り調査)
- ②現地踏査(現地調査計画立案のための施設概況調査)
- ③現地調査(目視、計測等による定性的、定量的な調査)を基本に行っています。



天端被覆工のひび割れ

機 能 診 断 結 果

1. 海岸堤防は、コンクリート壁のひび割れ、目地の開き、裏法の空洞化が見られる。
2. 排水樋門(コンクリート部)は、5箇所すべてでクラック、鉄筋露出が見られ補修が必要となっている。また、排水樋門(ゲート類)は、1箇所において補修が必要となっている。
3. 排水路は、部分的に空積ブロックの沈下、崩壊などが見られ補強が必要となっている。
4. 排水機場は、2箇所の排水機場のうち、改修されていない1箇所については、ポンプ及び機器類の補修が必要となっている。

本地区は現在、広域基盤整備計画調査「豊後地域」として平成20年度から調査を実施しており、これらの機能診断結果をもとに本年度は長寿命化に配慮した更新整備計画等を取りまとめ、広域基盤整備計画書を策定することとしています。

国 営 干 拓 環 境 対 策 調 査 諫 早 湾 地 区 環 境 モ ニ タ リ ン グ の 取 組 み

諫早湾干拓事業が完了して約3年が経ち、干拓地では多数の農企業が大規模な営農を展開しています。地区周辺においては、干拓事業実施後の環境モニタリングを実施しており、その状況について紹介します。

環境モニタリング調査

調査項目

環境モニタリング調査は下記の項目を実施しています。

気 象 …… 気温、降水量、風向・風速

水 質 …… 水温、DO、pH、COD、全ちっ素・全りん、濁度、有害物質等

底 質 …… 粒度分布、強熱減量、硫化物、全ちっ素・全りん、有害物質等

水生生物 …… プランクトン、魚卵・稚仔魚、底生生物、魚類

野 鳥 …… ポイントセンサス、ラインセンサス

陸生生物 …… 植物、哺乳類、爬虫類、両生類、昆虫類、土壤動物



採水状況(水質)



採泥状況(底質)



水生生物(魚類)採集



陸生生物(昆虫)採集

環境モニタリング調査結果(調整池の水質)

○平成元年から最新までの環境モニタリング調査結果(水質)は、下記アドレスで確認できます。

【環境モニタリング(環境監視)】

<http://www.maff.go.jp/kyusyu/nn/isahaya/kankyo/monitoring.html>

○諫早湾の観測データは、下記アドレスで確認できます。

【諫早湾観測最新情報】 http://www.ariake-do.jp/isahaya/01_data/01_s1.html



調査地点(調整池)

トピックス

平成22年12月5日(日)快晴のもと、長崎県農林部主催で干拓地にある試験ほ場において、約500名の子供や家族が参加し、ばれいしょ・ダイコン・ニンジン等の収穫体験や収穫した蒸しジャガイモ・サラダ等の試食会が行われました。



収穫体験(ばれいしょ等)



試食会(蒸しジャガイモ)

水路補修試験工事の取組み 八代平野地区 様々な工法による水路の経過観察

地区の概要

- 八代平野地区の用水路については、築造後約40年が経過し、老朽化による漏水や沈下等が著しく、通水機能の障害が生じているため、毎年、多額の費用をかけて補修工事を行っています。
- 今後も老朽化が進んでいくと大規模な補修工事が必要となることから、経済性や耐久性などを考慮して補修工法を選定する必要があります。

試験工事の目的

- 水路補修工法は、各メーカーから様々な工法が開発されていますが、近年、開発された工法が多いため、施工実績が少ないものが多く、メーカーのカタログのみでは工法の良否を判断できません。
- よって、試験工事として、いくつかの工法を実際に施工し、経過観察を行い今後の補修工法選定の参考にするものです。

各工法の概要(4メーカーにご協力を頂き、6工法の試験工事を実施)

- ①PPSライニング工法<積水化学工業(株)>
太陽光や紫外線ランプ等により短時間で硬化する「紫外線硬化型FRPシート(厚さ1mm)」を貼り付ける有機系ライニング工法
- ②靱性モルタルライニング工法<(株)デーロス>
靱性モルタル(高靱性繊維補強セメント複合材)を吹付ける無機系ライニング工法
※厚さ:側壁6mm,底板10mm
- ③ASフォーム板工法<農業用水路保全工法協会>
レジンコンクリートパネル(厚さ18mm)をアンカーで固定し、グラウト材を充填するパネル工法
- ④連続繊維補強型被覆工法<農業用水路保全工法協会>
高強度高炉スラグ系ポリマーセメントモルタル(厚さ10mm)の中間部分に耐アルカリガラスネットを敷設する無機系ライニング工法
- ⑤HSPモルタル被覆工法<農業用水路保全工法協会>
高強度高炉スラグ系ポリマーセメントモルタル(厚さ5mm)を吹付ける無機系ライニング工法
- ⑥FRPM板工法(QP2工法)<(株)栗本鐵工所>
緩衝材を設置し、その上にFRPM板(厚さ18mm)をアンカーで固定するパネル工法

考 察

ストックマネジメントの実施にあたり、補修工法の選定は、経済性・耐久性の観点から非常に重要なポイントになります。このような現地での試験施工は、今後の補修工法を選定するうえで参考にできることの他に、地元関係者や農家に施設の長寿命化対策について関心を持ってもらうという意味で期待できるものと考えています。



土地改良区を始め、市町・県へ各工法等の説明会



関係機関への施工状況の現地見学会に約50名の参加

新 技 術 紹 介

新 地 下 水 位 制 御 シ ス テ ム 「 F O E A S (フ ォ ア ス) 」

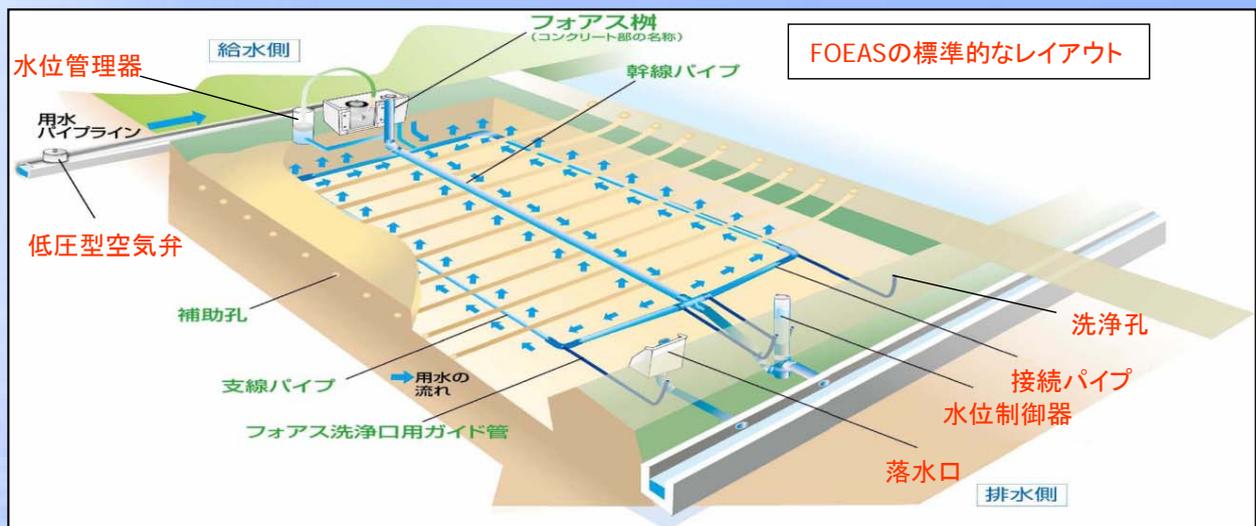
水 管 理 が 容 易 で 大 幅 な 節 水 が 可 能

FOEAS (フォアス) の概要

地下水位制御システム(FOEAS)は、地下かんがいと暗渠排水の両方を兼ね備えた画期的なシステムであり、農林水産省の「農業新技術2008」にも選定されています。

暗渠として埋設深60cm、敷設間隔10m程度で有孔管による幹線・支線パイプ、及びこれと直行して1m間隔で補助孔(弾丸暗渠)を施工し、水位調整のため給水側に水位管理者等、排水側に水位制御器等を設置します。

これらにより、ほ場の水位を田面から-30cm～+20cmの範囲で自由に設定・維持することができます。



FOEAS導入のメリット

- ①水管理が容易に
暗渠排水で湿害を、地下かんがいで干ばつを防止するとともに、作物に最適な水位を維持します。
- ②田畑輪換が容易に
自由に水位を設定できるので、田畑輪換が容易に行えます。
- ③長期使用も容易に
水位を保つことで、暗渠素材の耐用年数が長くなります。また、水圧により暗渠管内の排砂も可能となります。
- ④大幅な節水が可能に
必要量のための自動給水により無駄な掛け流しを防止します。用水量の40%を削減したという調査結果もあります。
- ⑤収量の増加に
排水不良等の条件の悪いほ場については、大きな収量の増加が見込めます。



対象ほ場

導入ほ場



大豆栽培におけるFOEAS導入ほ場と対象ほ場との比較(佐賀県上峰町)



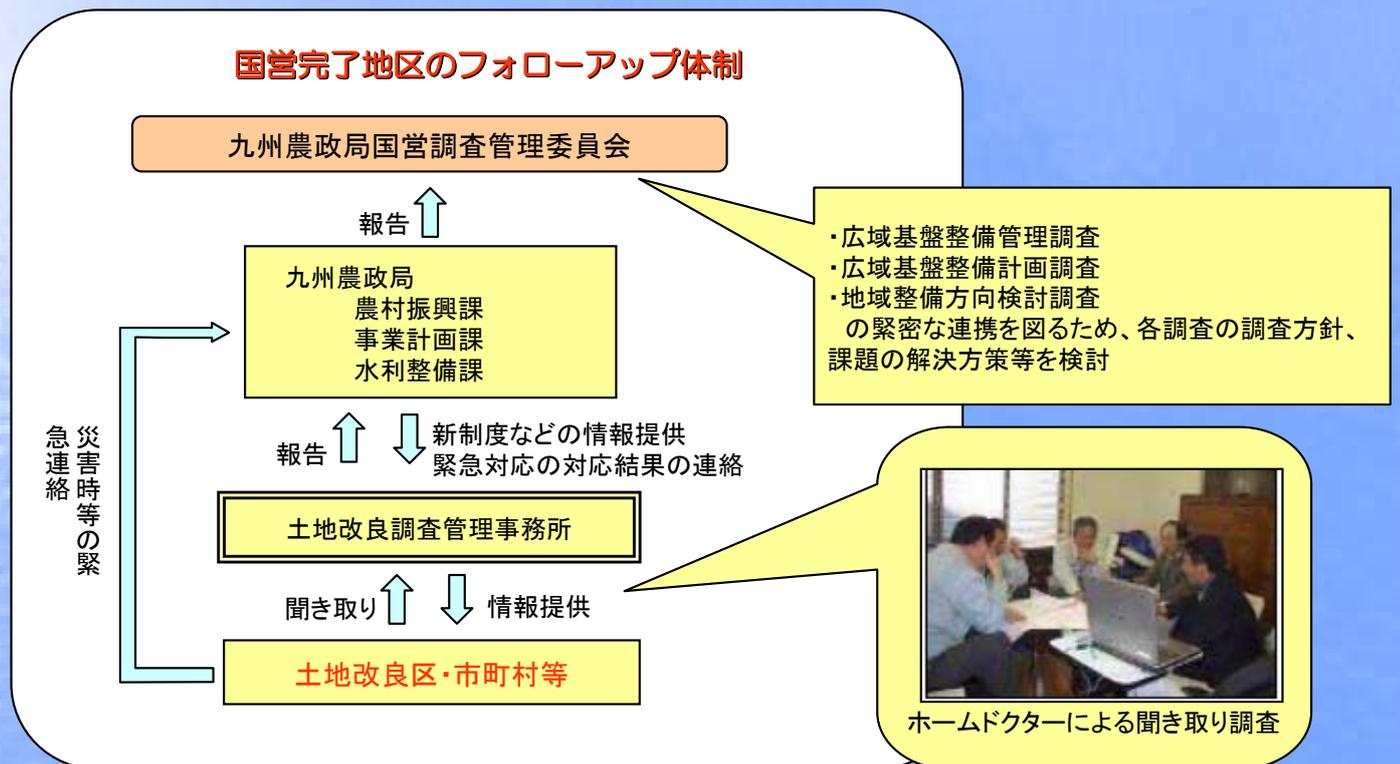
水位管理を行う秋水側の施設(佐賀県上峰町)

FOEAS導入により期待できる効果

FOEASは冬期の水利権取得や工事費の農家負担といった課題はありますが、小麦や大豆など水田裏作物の収量増はもちろんのこと、節水や労力節減は地球環境や人への優しさにつながります。食糧自給率の向上、高齢化や耕作放棄地の増加などの課題を抱えるわが国にとっては、今後期待できる新技術の一つといえるのではないのでしょうか。

九州農政局における 国営完了地区のフォローアップに係る取組み ホームドクター制

- 農業水利施設等の整備は、今後、再編及び更新事業が主体になってくる見込みとなっています。
- 一方で、農村地域の過疎化、高齢化、混住化等の進行により、土地改良区等による農業水利施設の日常管理において様々な支障が発生しています。
- 国として、施設管理者である土地改良区や関係市町村等と連携を密にし、地区毎の更新事業の基本構想を取りまとめることが極めて重要となっています。
- こうした状況を踏まえ、土地改良調査管理事務所の職員が国営事業完了地区の「ホームドクター」となり、
 - ①施設の状況や問題点等について、土地改良区等から定期的(年2回程度)に情報を収集し、カルテとして取りまとめを行います。
 - ②最近の農業情勢等の情報の土地改良区等への提供等を行うことで、土地改良区等との信頼関係を構築します。
- また、カルテの内容を広域基盤整備計画や機能保全計画へ反映させるなど、適切な施設の保全・更新を目指しています。



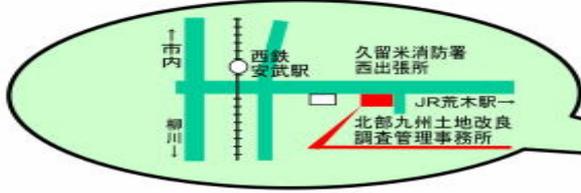
各地区の担当者(ホームドクター)

- 耳納山麓地区……………企画課 水利計画係
- 筑後川中流地区……………企画課 調整係
- 嘉瀬川地区……………調査課 事業評価係
- 上場地区……………計画課 計画第2係
- 多良岳地区……………保全管理課 施設保全係
- 伊万里地区……………保全管理課 施設保全係
- 八代平野地区……………熊本支所 計画係
- 菊池台地地区……………保全管理課 資源保全係
- 駅館川地区……………保全管理課 保全技術係
- 諫早湾地区……………環境調整課 環境保全係
- 筑後川下流左岸地区…保全管理課 防災情報係
- 筑後川下流右岸地区…計画課 計画第1係
- 西国東地区……………保全管理課 保全技術係

あなたの地区の土地改良区へホームドクターとして伺います。

所在地

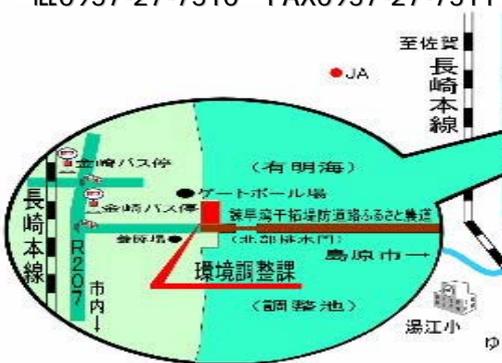
九州農政局
 北部九州土地改良調査管理事務所
 〒830-0062
 福岡県久留米市荒木町白口891-20
 Tel.0942-27-2160 FAX0942-51-3058



熊本支所(九州農政局土地改良技術事務所4階)
 〒862-0901
 熊本県熊本市東町四丁目5-7
 Tel.096-369-2880 FAX096-214-6340



環境調整課
 〒859-0146
 長崎県諫早市高来町金崎字浜ノ道149-6
 Tel.0957-27-7510 FAX0957-27-7511



URL <http://www.maff.go.jp/kyusyu/seibibu/kokuei/01/index.html>

編集後記

この情報紙を発刊するにあたり、もう少し早い段階で発刊すべく作業を行っていましたが、思惑どおりにいかず苦労しました。内容については、行政のみならず、土地改良区や農家の皆様にも見て、読んで頂きたく工夫したつもりです。内容に関する問い合わせや、ご意見などございましたら、気軽にお電話なり、封書なりにてご一報いただければ幸いです。より良い情報誌を目指し紙面の充実を図って行きたいと考えています。

北部九州土地改良調査管理事務所 企画課 企画情報管理官